

■H25.9.14 勉強会<合同>第6回 参加者アンケート結果: 11名

No	1.比較評価について(グループ検討の進め方、内容等)	2.今後の予定について	その他、PIプロジェクトに関するご意見
1	一つ一つの比較評価より全体的な話になりがちなのは、仕方がない事かと思えます。		各メンバーが細かい評価をする事は難しいかと思えます。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・良かった点は、コーディネーターの仕切りで、平和的な話しが出来たこと。 ・悪かった点は、(メリット、デメリット)の表現(記述)が抽象的、一般的なものになっていて、数値は別資料を参照せねばならず、「資料に基づいて議論して下さい」といわれたものの、具体的な話し合いにならなかった。 やや満腹感というか、同じ議論の繰り返しになっていて、盛り上がり欠けてきた。	<ul style="list-style-type: none"> ・結局、カネがいくらあり、いくら出せるのか?という問題だと思います。 ・沼津市は極めて誠実さを欠いています。 ・県として厳しい指導をお願いいたします。 	<ul style="list-style-type: none"> ・何度も同じことを主張しますが、実質的な事業主体である沼津市がPIに参加拒否している状況下、将来の財政予測や市民サービスの低下など、具体的リスクが確認できず、不足感は最後まで残ります。 ・私人が自宅を新築するのにおカネをどう工面するか(頭金、ローン)と他の家計費(教育費、生活費)との支出バランスを第一に考慮することがあります。沼津市がPIに当事者として参加しない以上、カタログ上の商品比較に終わってしまうのかなと危惧しております。 ・「暫定・自由通路」案が消えてしまったことが残念です。2020年の東京オリンピックに、沼津市の中心市街地を活用するチャンスが失われてしまったと思います。
3	<ul style="list-style-type: none"> ①「コンパクトで集積性の高い地域づくりを進め、長期的に大きな効果を期待」(E,H)について ・「コンパクト」という表現が曖昧である。どういう状態を指すのか分からない。 ・「長期的に大きな効果を期待」とあるが、何が期待できるのか、具体性に欠ける。どうしてそう言えるのか「裏付け」が必要である。 ②「代替案4」「代替案7」の「鉄道貨物駅を近傍駅へ統合する場合」について ・この場合、当然新たな「計画変更」になり、「改良計画の見直し」や「買収済み用地の処理」、現「貨物駅用地の購入交渉」、さらに「土地取得費用の捻出」等の施策が必要となる。そのことは、工事期間の長期化、事業費の肥大化に繋がる。こうしたことも明記すべきではないか。 ③「代替案9～13」の「歩行者・自転車等の駅南北の移動は、高低差があり、駅以外は現状と変わらない」について ・この評価は、「橋上駅・南北自由通路」を過小評価している。沼津市民の70～80%の人が賛同していると思われる事業で、「橋上駅・自由通路実現で南北交流は画期的に向上する」とすべきメリットである。 ④ 評価項目について「総合的な視点で整理したとのこと」について ・事業期間、事業費、現実的実現性(可能性)につて、一番重視し考慮すべきである。 ・現状の沼津市中心市街地の人口は減少し、商業店舗も減少、デパートが撤退している状態で、商業床面積や住宅床面積が少々増えたとしてもほとんど意味のない評価である。衰退の原因を解明することが先決である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「専門家の監査」を得た後、その結果を次回第7回合同勉強会に報告し、指摘された箇所を加除・訂正し、「推進本部」に報告すべきである。 ・「推奨案」を選定する場合、複数の案を提示するべきであり、そのために各グループ、団体の車座談議等開催して意見を聴くことも必要ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者の「意見」や「疑問点」については、率直に誠意を持って対応していただくと疑問点が確認できますし、参加者全員の方の理解も深まります。 ・毎回提示される「資料」作成は、大変な仕事だと思います。第1回の勉強会から第6回までの資料を開いてみると、内容が少しずつ充実してきたことが分かります。現計画にこだわっていた方も、私たち「見直しグループ」の意見も理解できてきたのではないかと思います。 ・「交通渋滞解消」で始まった「鉄道高架問題」・・・事業費、期間、実現性、を考えて問題を解消したいものです。事務局のご努力に感謝いたします。

4	市、県の財政が心配です。沼津市はこの事業の他にごみ焼却場の更新、水道事業の500億円の赤字、体育館の建設等を実施するスケジュール表に予算を貼付けて、目に見える数字を一覧表にして下さい。		
5		沼津市の出席の無い中、沼津の都市計画、話し合い等、意味がないと思う。	
6	<p>・発言者の声が小さい方がいて、まわりの雑音に負けている。ファシリテーターの方に話されているので、意見のまとめを各々お願いしたい。</p> <p>・本日頂いた資料は、よく出来ている。本日はその内容を確認するのが時間がかかった。</p>		
7			皆出席めざしてがんばります。
8	<p>(1) グループ検討の進め方</p> <p>① 前回同様比較的スムーズに進められたと思う。</p> <p>② 時間が短すぎる。比較評価案やメリット・デメリットの一つ一つについて、参加者皆がその場で議論することが出来なかったが大いに悔やまれる。</p> <p>※「事前配布資料でこれまで何度も目を通してあるはずだ」と思われるが、市からの情報提供がない中、実際は違うということを理解してもらいたい。</p> <p>(2) 内容等</p> <p>① 案の概要</p> <p>イ. 「あくまで鉄道高架をやるのだ」という人たちのことを慮っての7案だと思われる。</p> <p>ロ. 例えば原地区に表示されている事業は、あくまで将来やりたいものであって且つ民間主導でなすべきものも記載されている。従ってこれらをも計算根拠に入れて費用概算を記述するのは間違いだと思える。</p> <p>ハ. 現時点では、駅北に新たに作られる諸施設の稼働率を上げるため、そして商店街の活性化に寄与できればとの願望から、沼津駅付近の南北交通の円滑化を図ることを最優先課題とすべきだと考える。</p> <p>② 比較評価(案)概要</p> <p>イ. メリットや可能性・・・代替案2～7 について、これをやれば県東部地域を牽引する拠点を形成とあるが、道路網や社会情勢の劇的な変化により、さらに言えば、沼津市の店主の姿勢等(=自ら改革に取り組もうという姿勢が全く感じ取れない)から冷静に判断すれば、最早「沼津市が東部地域の雄都になる」などの言葉を使うべきではないと考える。</p>	10/19の第7回合同勉強会を以って最終回とするとあるが、その取りまとめの前に少なくとも沼津市中心部と原地区センターの2箇所でも一般市民を対象にしたPIプロジェクト推奨案説明会を開催することを提案する。当然質疑応答時間を設ける。	<p>『鉄道高架事業をゼロベースで検討する』という当初のスタンスで勉強会等は進められてきたと思う。しかし、評価項目等を見ても、随所に恣意的表現が見られ(=正確な情報が沼津市当局から示されないまま作成されたためか?)、結局役所の常套手段としての「ちゃんと手続を踏んだ」ということで決着を図ろうとしているのではとの疑念を抱くようになった。</p> <p>後世に誇れるような沼津市のまちづくりに『多大な貢献をしたPIプロジェクト』と評価されることを夢見て今後も参加していく所存である。</p> <p>沼津市当局は静岡県に100%お預けしているように見受けられる。是非彼らの意向を酌んで、残り少ないPIプロジェクトを高所より胸を張って進めてもらいたい。</p> <p>9月16日の日経新聞は一面で、「日本の65歳以上の高齢者人口が国民の1/4になった」と報じている。我々は今後の対策を早急に講じなければならない。かかる中での沼津のこの大事業計画。</p> <p>以前より事務局に提言してきたものの実現しなかった事だが、次世代を担う若者=(少なくとも大学生・高校生など借金を引き継ぎ支払ってくれる年代の人間)と人口の半分以上を占める女性群を何故この勉強会に参加させなかったのか。いろいろ問題はあことは承知しているが、後世に禍根を残すことになると思える。</p> <p>次回の会合には、オブザーバーという資格でもいいから、あらゆる手段を講じて、彼らに参加を呼びかけることを改めて提案する。</p> <p>更に、推奨案がまとまった後、広く市民に発表する機会を設けてもらいたい。</p> <p>(質疑応答時間をたっぷり設ける必要あり)</p>

ロ. 『コンパクトで集積性の高い地域づくりを』とあるが、これも現実を無視した超楽観的考え方だと考える。※駅周辺の地価は当然高く駐車場の確保も難しい中、何をもちて集積性が高くなる といのか理解できない。

ハ. 代替案9、12について…南北道路立体化(1～2本)については同時に事業を進めるのではなく、必要に応じて、優先順位をつけて行えばいい事業である。工事費用と期間の大幅な縮減につながる。

ニ. 代替案10については『事業費が現計画に比べ約半分に抑制』とある計算根拠がない。⇒そんなはずがない。もっと大幅に抑制できるはずだ。

③ デメリットやリスク・課題

イ. 社会・経済環境の劇的な変化を直視し、計画を見直さなくてはならない事態にあることは、極端な推進派の人たち以外なら、誰も理解できると考える。問題は、先ず沼津市の将来像を描きなすこと(現在進めているPIプロジェクトもその一環だと考えているが)、それを沼津市民や県民に、さらには、利害関係者(地権者、JR東海、JR貨物)等に理解してもらうことから始めなくてはならない。

ロ. 先日7年後の2020年のオリンピック開催が東京に決定した。しかもその開催地決定の障害であった福島原発の後始末について安倍首相は政府が責任を持って対応することを明言した。つまり7年後までには、開催施設の完成とインフラ整備そして原発問題の解決を国際公約したことである。

ハ. 7年後には世界中から人々がオリンピック見物にやってくるというのに、彼らを“ふじの国静岡”に迎え入れないわけにはいかない。否積極的に迎え入れたいと思う。そのためには時間の概念をしっかりと意識しなくてはならない。

計画の変更に長い時間をかけるわけにはいかない。国際会議場も来年には完成するのだといい聞かせ、少なくともオリンピック開催までには沼津駅周辺の整備を終わらせるのだという気持ちを持ちたい。その点の認識が欠けている。

ニ. つまり東北大震災の復興事業と合わせるとそれだけでなく財政難に喘ぐ我が国にとって更に巨額の財源を必要とすることだと誰も認識している。故に、すべての計画を税金でやるという認識は捨て去り、如何に民間資本を取り入れることができるかを考えるべきだ。この際規制の緩和と強化を織り交ぜて、環境に配慮しながら“ふじの国静岡”に相応しい沼津のまちづくりを進めたい。

ホ. 課題の最たるものは、行政が余りにも現実から目を背けている点である。また、当局の動きをチェックすべき沼津市議の責任は重い。

ヘ. 新たに取得しなければならない用地については、先ず沼津駅周辺のその取得は大変な時間と労力を要することは明らかである。一方原の健康文化タウン構想のための土地については、以前行ったアンケートでも喜んで提供するとしていることからスムーズに進めることが可能だと考える。

ト. 原地区の貨物駅予定地以外の計画については、第2弾3弾のものとして、規制の問題をクリアできた段階でターゲットを絞ってアプローチを図り実現していけばよい。

④ 地区別の比較評価

イ. 沼津駅周辺について…高架化した場合の、メリットや可能性が余りにも不確実性の高いものである。一方高架化しない場合のデメリットやリスク・課題が過大に表現されている。非常に恣意的に思える。

ロ. 原地区について…『貨物駅予定地以外は現行の土地利用規制に従う』とあるが、活性化を図ろうとしている中、それを封じ込めようとするのは時代に逆行するものだ。むしろ進出企業や施設等についての規制緩和を図ることによりインフラ整備を促進する事が急務だと考える。尤も、虫食い状態にしない為規制すべきことは断固守るべきだが。

9	ファシリテーターの方も意見のとりまとめが大変だと思いますが、うまくまとめて頂き、感謝します。	次回で本当に案が提出されるのでしょうか。	いつも資料作成ご苦労様です。今回は特に大変だったと思います。そろそろ川勝知事が見学にいらしてもよろしいのでは。
10			新ファイルありがとうございました。
11	技術評価アドバイザーの方にはBigデータを活用し、データマイニングから評価をして頂けるとありがたいです。	特にありません。	<ul style="list-style-type: none">•いろいろな意見が聞くことができた事はありがたかったです。•行政のご担当者の真摯な姿勢に敬意を表します。